

～児童・生徒と地域の大人の対話会～

“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動では、学校、家庭及び地域が連携して、「いじめ・非行を許さない」環境づくりに取り組んでいます。その一環として、各青少年育成市町村民会議や各学校との連携のもと、児童・生徒と地域の大人が対話をする機会を設けて、児童・生徒と大人の協働によるいじめ・非行防止対策を推進しています。また、地域課題を大人とともに考えることで、生活環境充実のための具体的な取組を考える契機にもなっています。今回は河北町での様子を紹介します。

地域貢献活動を考える

ふれあいトーク河北2026

7月31日（金）河北町役場において、河北町青少年育成市民会議（会長 砂田 哲氏）が「ふれあいトーク河北2026」を開催しました。対話会には、県立谷地高等学校生、町立河北中学校生、中高生ボランティアサークルピエロ・ピエロチビ会員、町民会議役員、NPO法人、観光協会や地域協力隊員など関係者25名が参加しました。人口減少が進む中、町の財産であるどんがホール、どんが祭り、河北町児童動物園を活かした地域活性化事業に、自分たちがどう貢献できるかについて話し合いました。

初めに各学校やボランティアサークルの活動報告がありました。谷地高校地域探求班では、季節ごとのイベント出展、河北町の魅力学習と発信、食文化を通じた学びや企業と連携した商品開発の実践が報告されました。河北中学校生徒会は挨拶運動や「どんが祭り」への積極的参加、運動会ボランティアや吹奏楽部の音楽による地域交流活動、街の店舗シャッターに動物園のキャラクターを描くプロジェクトなど、多彩な取組を報告。ボランティアサークルピエロ・ピエロチビは、いもこ列車一般公開日のボランティア、テレビ公開収録



の協力、ベに花マラソンのボランティアなど、子どもから大人まで多くの人々と触れ合う活動に充実感を味わっているという報告がありました。

その後のグループ討議で、これからの方向性を話し合いました。様々なイベントでの人手不足が否めない中で、中学校、高校、ボランティアサークルが協力して盛り上げていくこと、情報発信のためにSNSを活用すること、イベントの内容を検討段階から参加して、子どもから高齢者まで楽しめる企画を提案するなど、大人から依頼されて行うボランティアから、自分たちのやりたいことを実現するボランティアに変えていきたいという力強い意見も出されました。参加した中学生は、「大人との対話で得た情報は、自分の考えを構築する武器になる。活動の範囲が広がる気がする。」高校生は、「大人と話をする機会が少ないので楽しかった。たくさん称賛や激励を受けて、これからの意欲につながった。」と感想を話してくれました。

町民会議砂田会長は、「中高校生の熱い思いを聞いて感動しました。私自身とても楽しかったです。やるかやらないかより考えることが大事、その姿勢をこれからも大切にしてください。」と講評を述べました。

